# 英國外交の動向

外務省囑託　細野軍治

（一）

日獨伊防共協定締結の結果所謂集團的安全保障制度は崩壞したと同樣に無力化し歐洲は大戰前の勢力均衡制度に復歸した。之が最も顯著に現はれたのが國際聯盟を支持したイーデン外相の桂冠と次いで起つた過般の獨墺合併である。

然し英國の外交はイーデンの退場に依つて、果して本質的に變化したか。「チエンバーレン」首相は獨墺合併後（三月二十四日）下院に於ける演說に於て、要旨左の如き聲明を爲して居る。

「英國政府は飽くまで平和政策を堅持するが、死活的權益並に國際上の義務を遂行する爲めには、必要に應じて一戰を交へることを辭さない。特に英帝國領土並に交通路の擁護、佛白兩國が何等挑發せずして侵略を受けたる場合、ポルトガル、イラク、埃及との條約上の義務を遂行する場合等に於て然りである。

チエコに關しては、假に同國が侵略を受けることがあつても、自働的に同國に援助を與へることは保障出來ない。又佛國がチエコとの相互援助條約に依り、後者を援助する場合にも英國としては佛國を援助することを約束することは出來ない。」

イーデン外相は一、九三六年十一月二十日共の選擧區「リイミングトン」に於て次の如く演說して居る。

「英國の軍備は聯盟規約又は不戰條約と合致せざる目的の爲めに決して使用されないであらう。英國の軍備は英帝國領土の防衞の爲めに使用することが出來、且必要が起る場合使用せられるであらう。又現存義務に從ひ挑發されざる侵略に對し、佛國及白耳義の防禦の爲め使用することが出來、且必要が起る場合使用するであらう。新ロカルノ協定の成立するに於ては獨乙に對しても同樣の義務が生ずるであらう。右の外「イラク」との同盟條約及埃及との新條約に依る義務が英國の確定的義務である。更に英國の軍備は聯盟規約の下に侵略の犧牲者を援助する爲め吾人の判斷に從ひ使用せられ得る。然しながら右の場合軍事行動を執る自動的義務はない。國に對し眞の死活的權益に關係ある地域を除き自働的の軍事行動を期待することは出來ぬ。」

今チエンバーレン及イーデンの聲明を比較する時は、吾人は兩者の間に何等本質的の差異を發見出來ない。イーデンは國際問題に對する認識に於てチエンバーレンと意見一致せず、袂を別つに至つたことを言明して居るが、兩者の外交に差異ありとせば本質に於てでなく方法に在ると考へられる。

（二）

大戰後の英國外交は何人が外相であつても、佛國との協調を基調としたものであつた。而して英佛外交の基調は、國際聯盟及不戰條約を强化し集團的安全保障制度を確立せんとするに在つた。チエンバーレン首相は二月二十二日の聲明で、或程度迄聯盟を否定して居るが、之は日獨伊の如き大國が去つた現在の聯盟を指すので、英國が聯盟に基く集團的安全保障制度を全然拋棄したと言ふのではない。故にチエンバーレン外交の當面の意圖は聯盟の機構と獨立に二國間の交涉に依つて安全保障を組織せんとするのである。此の點が何も彼も聯盟の機構內に於て行動せんとするイーデン外交と異なるのである。

昨年獨伊の樞軸が成つて歐洲は再び大戰前の勢力均衡に基いた英佛蘇對獨伊の二大陣營に對立した。英國が聯盟を支持したのも實は大戰の要因であつた二大陣營の對立を再現せしめない爲であつた。大戰前の對立は勢力均衡にのみ基いたものであつたが、今日はイデオロギーの要素も加はり、其の抗爭となり、之がスペイン內亂に於て如實に示されて居るのである。チエンバーレンは右の如き現實を認識し、獨伊との關係を調整することに依り兩陣營對立の尖銳化を喰ひ止めんと意圖して居るのである。

（三）

二十世紀の始めに歐洲政局に一石を投じ、所謂デプロマチック・レボリューションを捲き起したのは日英同盟であつた。英國は露國の極東進出を阻止する爲め、獨乙との協力を求めたが拒絕されたので、日本と同盟を結んだ。之を敢行したのが、現英首相の父ジョセフ・チエンバーレンであつたのである。

英國は日本と同盟を結ぶと共に佛國との親善が必要となり、英佛協約が成立した。英國の考へでは佛國と親善關係に在れば佛國は少くとも露國の極東政策を援助しないであらうから、間接に露國を牽制出來ると云ふのであつた。故に日英同盟も英佛協約も本來は極東に關するものであつて、共に露西亞を目標として居つたのである。右の如くデプロマチック・レボリューションは極東に於て起つたのであるが、其の反響は歐洲に現はれたのである。

當時極東に於て英國を脅威するものは露國の進出であり、歐洲に於て英國に挑戰したのは獨乙就中獨乙海軍の擴張であつた。英國は獨乙の海軍に對抗する爲め、極東及地中海艦隊の主力を北海に集結したので英獨海軍競爭は、益々激烈になつた。英國艦隊を北海に集結することを可能ならしめたのは日英同盟と英佛協約であつたのである。

英國と獨乙との關係は、南阿戰爭中の獨乙の排英的態度及後年モロッコに於ける獨乙の行動等に依つて剌戟され惡化し、海軍競爭に拍車を掛けた。海牙平和會議に於て英國の軍縮提案も獨乙から一蹴されたので、英國は百八十度の轉回を爲して露國と協約を結んだ。其の結果日本との戰に敗れた露國は、愈々極東より手を引き、近東に進出せんと試み、玆に墺洪國との角逐が再開せられ、世界大戰を招來するに至つた。當時獨乙の外交は英佛殊に英露協約の切崩に全力を注いだのであつた。

（四）

歷史は繰返すもので、今日歐洲に起りつつあるデプロマチック・レボリューションの要因は、日獨防共協定なのである。右協定は獨伊樞軸に進展し、次で日伊防共協定を齎らし、玆に三國の防共陣が結成された。右防共協定は前述の如く國際聯盟に依る集團的安全保障制度を全く無力化し、勢力均衡制度が之に代つた。

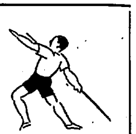
チエンバーレン首相の意圖は、此の日獨伊協定を切崩すに在るものの如くである。イーデンは防共協定に對抗するに國際聯盟を以てしたが、チエンバーレンは內部から之を切崩さんとして居るのである。英國は獨伊樞軸を無力化さんが爲めに先づ獨伊と個別的に折衝し兩國との關係を調整し、結局懸案たる新ロカルノ協定の成立に導かんと企圖して居るものの如くである。今假設に基いて英國外交が將來如何なる動きを見せるかを考察して見よう。

（五）

歐洲に於て英國が最も重視して居る國は獨乙である。對伊關係は對獨工作が成功すれば自然に調整されるのである。然るに對獨關係は對佛關係を考慮せずに調整出來ない。佛國と親善を結びながら獨乙との關係を改善することは獨佛關係が傳統的に犬猿的である限り困難である。大戰前に對獨外交工

（次頁に續く）





# 厚生運動の提唱

厚生省參與　吉阪俊藏

我國に於ける厚生運動は淵源頗る遠く神樂、神遊びの昔に遡る。アルピニズムは役の小角が之を創め、六根を淸淨化する精神行事となつてゐる。ハイキング、ピクニクは櫻狩、紅葉狩として行はれた。中世には嚴格なる道德と深遠なる哲理を有する諸種の武術が發達した。枯淡な佛教にも尙民衆的な盆踊が生れた。其の外宮角力、力石から生花、茶の湯、盆栽等の特殊な形式と精神とに充ちた慰樂がある。『勞働の間』に於ける棟上げの木遣りや『勞働の前』に於ける消防出初式のアクロバトの如き行事は本邦の特色あるリクリエションとして世界に紹介したいことである。

凡そ適當なるリクリエーションを與へれば不道德、不健康、不經濟なる場所への出入はなくなる筈である。親の脛を嚙つてカフエに耽溺する學生も自然其の影を絕つに至る事と思ふ。

非常時に於てリクリエーションが益々必要になつて來ることは、已に大戰中の歐米の例を見ても明かであるが、我國今日の時局下に於て映畫館の超滿員風景は全く驚かされる現象である。此の現象は何と解釋すべきか。凡そ人間は活動の爲に睡眠を要する如く緊張の爲めには一定の弛緩を必要とする。奢侈は固より愼み懶惰は之を警めて居るけれども、國民には尙忘我を求める本能があらうと思ふ。此の弛緩を健全にして明朗なる戶外運動や音樂合唱等に依り指導することは國民娛樂の改善であり非常時局の國民精神總動員を最も效果的にするものではなからうか。

我國現在の厚生運動を見るときは、熱意に於ても硏究に於ても事業に於ても伊太利のドポラボロや獨逸のK・D・Fに比較して甚しく遜色を覺えるのは遺憾のことである。公園運動場の施設にしても震災以來發達したとは云ふものゝまだ十分でない。工場では靑年學校の敎練の場所にも苦しんで居るものがある。況んや公園其他の場所の利用に至つては適當の指導が行はれて居るとは云はれないのである。美術館、博物館、圖書館の如き文化施設も同樣である。此點に於てスタヂウムと繪畫館、憲法記念館を兼ね備へる明治神宮の外苑は心身の兩面の施設を併せたものであり、明治天皇の御聖德を彰顯しまつるに誠にふさはしい。若し希望を陳べることを許されるならば明治神宮外苑の精神を津々浦々の部落の鎭守に及ぼしたいものである。小規模ならば角力場、中規模ならば矢場や馬場、テニスコート位は作らへ又鄕土館又は寶物館を設けて精神敎育に資することゝしたい。工場や鑛山に對しては使用人員千人を超ゆる場合には法律を以て運動場の如き一定の體育施設を強要しても差支ないのではないか。

も一つ提議したいことは、名稱は適當に考へられやうが厚生會といふ如き團體を工場鑛山に又地方では町村又は部落に設け、此の團體に於て從業員又は部落民の體育向上の方法に付て情操涵養の手段に付て或は經濟生活乃至娛樂生活の改善に付て協議し實行することゝしたい。工場鑛山の中には福利委員、安全委員を任命し又勞資懇談の委員會を設けて厚生會の仕事の一部を實行して居るが厚生會は工場議會といふが如き審議機關でなく產業體操や音樂講習や其他厚生事業の實行機關になるのである。之れこそ勞資一體の大和運動である。

各厚生會は產業別に又は地方的に或は全國的に集合させて、競技會や展覽會やマス、デモンストレーションを行ひ切磋琢磨の機會を多くし、歡樂を大にして行くことが出來るであらう。併しそれには厚生運動を指導すべき一の中央機關、少くとも聯絡機關が必要である。現在厚生運動の關係團體としては協調會の產業福利部あり、勤勞者敎育會あり、大日本體育協會あり、靑年團あり、國際文化振興會あり、其他奬健會、體育藝術協會、造園綠地協會等大小無數の團體があるが之が聯絡統制の機關がない。今や厚生省が新に設置せられたるに當り社會政策の新方向として政府も一步を乘出して自ら指導の勞をとり、國民福祉に關する一大關心を示して貰ひたいのである。（完）

（二頁下段より）

作が失敗したのも結局『舊き友を捨てて新なる友を求むる』ことの困難に基因して居る。獨乙は對佛戰爭の場合、英國が絕對中立を守ることを求めたが、右は佛國を見捨てることを意味するのであるから英國は拒絕する外なかつた。英國は今日白佛國境を以て自國の國防線と看做して居る故中立維持は一層困難である。

右の如き困難を解決するのが新ロカルノ協定の使命である。即ち右協定に於ては白佛が挑發せずして獨乙側より侵略を受けた場合、英國は白佛を防禦する。同樣に獨乙が挑發せずして佛國側より侵略を受けた場合には英國は獨乙を防禦する義務を負ふと云ふのである。玆に問題となるのは佛蘇相互援助條約である。獨乙側は此の條約の存在する限り四國協定に應ぜざることを屢々明かにして居るが佛國側は蘇聯との盟約を廢棄する意思はない。四國協定の成立性は實に此處に存するのである。

故に英國の企圖することは獨乙をして東方膨脹政策を拋棄せしめることである。それには獨乙の中歐進出を或程度まで認め、獨乙をしてダニューブより近東に進出せしめなければならない。過般の獨墺合併を容認したのも右の如き意圖に基いて居るものと考へられる。獨乙を近東に進出せしめ、伊太利と角逐させることとすれば東方進出を斷念するであらう。そうなれば蘇聯は安心して極東に關心を集中することが出來る。斯くの如く英國が獨乙をダニューブに進出せしめ伊太利と角逐させ、蘇聯を極東に追ひやり日本に當らしめることは伊太利と日本を牽制する一石二鳥の妙策たるを失はない。

獨乙が東方進出を斷念すれば佛蘇相互援助條約の必要性も薄らぎ獨乙側の主張する如く之を廢棄することが可能となり、從つて新ロカルノ四國協定に對する大障碍も除去されるのである。

伊太利との關係はエチオピア併合を認め、地中海問題を解決すれば改善される。目下英伊會談は順調に進行し近く協定成立すると傳へられて居る。

（六）

要するに歐洲平和を維持する鍵を握つて居る國は獨乙である。歐洲の平和を維持するには獨乙を含む四國協定に依り相互の安全を保障するのが最も適當の方法であると言ふので、英國は新ロカルノ條約締結には全力を傾倒するであらう。右條約の成立は獨伊樞軸の弱體化を意味することは言ふまでもない。

英國の對日工作如何、チエンバーレンの現實外交は日本に有利に展開するが如き印象を與へて居るが果して然るや。英國が考へて居ることは前述の如く一方蘇聯を極東に向けることと他方米國と協力し日本に當ることであらう。最近の英米海軍擴張計畫は對日牽制を企圖して居ることは疑ひない。尙前述の對獨及對伊交涉が成功し新ロカルノ協定が成立し、歐洲が安定すれば英國は極東外交に積極的に乘り出して來ることは明白である。（完）

※　※